

平成 25 年 9 月 19 日
独立行政法人国民生活センター

柔軟仕上げ剤ののにおいに関する情報提供

柔軟仕上げ剤は、衣類をソフトに保ち、傷んだ繊維を柔らかくすることをうたったものです。10 数年前までは、部屋干しののにおいや汗ののにおいなどを抑えるため、微香タイプの柔軟仕上げ剤が主流でしたが、2000 年代後半から香りの強い海外製の柔軟仕上げ剤がブームとなったのをきっかけに、現在は、芳香性を工夫した商品の品ぞろえが広がっています。国内の製造者の柔軟仕上げ剤の販売量は 2008 年の 24.8 万トンから 2012 年の 26.0 万トンへ、販売金額は 2008 年の 618 億円から 2012 年の 715 億円へと増えており、いずれも増加傾向にあります^(注1)。

一方で、PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム）^(注2) に寄せられる「柔軟仕上げ剤ののにおい」に関する相談件数が増加傾向にあります。そこで、収集した相談内容を分析し、情報提供することとしました。

(注1) 日本石鹼洗剤工業会ホームページ (<http://jsda.org/w/>) の「洗浄剤等の年間販売統計」などから引用しています。

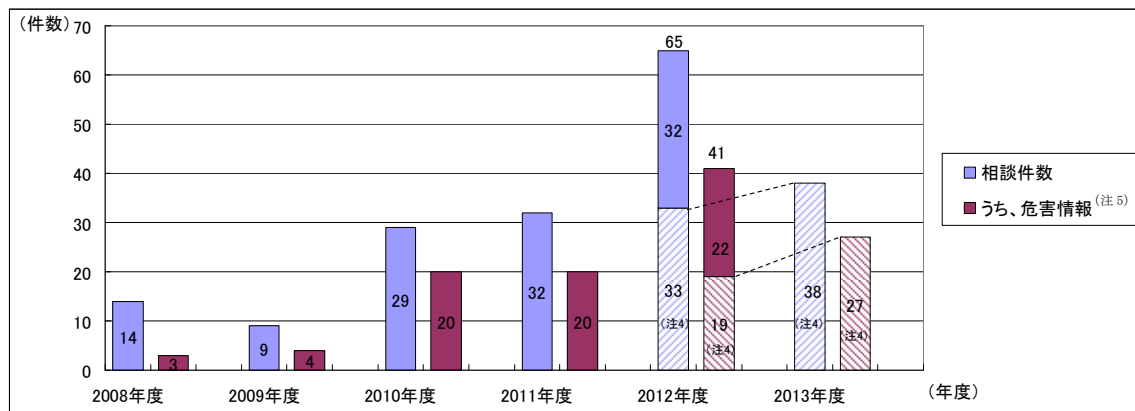
(注2) PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センターをオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのことです。

1. 相談の概要

PIO-NET に寄せられた「柔軟仕上げ剤ののにおい」に関する相談件数は、2008 年度は 14 件でしたが、2012 年度は 65 件となり、急増しています^(注3)。2013 年度は前年同期と比較してさらに増加傾向にあります（図 1）。また、5 月から 10 月にかけて相談が多く（表 1）、商品の購入者と相談者が異なっている相談の割合が 74% も占めており（表 2）、春から秋にかけて、相談者が使用したものではない、隣家などの他人が使用した柔軟仕上げ剤ののにおいについての相談が多く寄せられています。

(注3) 2008 年度以降受付、2013 年 8 月 31 日までの登録分。

図 1. 「柔軟仕上げ剤ののにおい」に関する相談の年度別の推移



(注4) 斜線部分は当該年度の 8 月 31 日までの登録分であり、2013 年度分を 2012 年度の同時期の件数と比較をしています。

(注5) 「危害情報」とは、商品・役務・設備に関して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという相談のことです。

表 1. 相談受付月 (n=187)

受付月	2008～2012年度(件数)	割合	2013年度(件数)
4月	3	2%	4
5月	14	9%	3
6月	18	12%	11
7月	25	17%	7
8月	17	12%	13
9月	14	9%	-
10月	16	11%	-
11月	10	7%	-
12月	5	3%	-
1月	9	6%	-
2月	13	9%	-
3月	5	3%	-
合計	149	100%	38

表 2. 商品の購入者と相談者の関係^(注6) (不明・無回答等 2 件除く (n=185))

商品の購入者と相談者の関係	件数	割合
相談者と同じ人	48	26%
相談者と別の人	137	74%
合計	185	100%

(注6) PIO-NET の項目では「契約当事者同一欄」を用いて集計しています。

「柔軟仕上げ剤のにおい」に関する相談 187 件のうち、危害情報は 61% (115 件) で、その年度別の件数は、2008 年度は 3 件でしたが、2012 年度には 41 件となり、急増しています。2013 年度は前年同期と比較してさらに増加傾向にあります (図 1)。

危害情報の内訳をみると、被害者 (身体にけがや病気等の疾病 (危害) を受けた者) の性別・年代は、30 歳代～50 歳代の女性が 70% (74 件) と多くを占めています (表 3)。また、被害にあった場所は、回答があった 72 件のうち、「家庭」が 92% (66 件) を占めています (表 4)。さらに、危害内容としては、体調不良などの「その他の傷病及び諸症状」(81 件) と「呼吸器障害」(24 件) をあわせると、全体の 91% (105 件) を占めています。全体のうち、危害症状が 1 カ月以上に渡っているとの申し出は 12 件あります。

表 3. 被害者の性別・年代 (不明・無回答等 10 件除く (n=105))

	男性	女性	合計
10歳未満	0	0	0
10歳代	0	0	0
20歳代	0	0	0
30歳代	4	21	25
40歳代	2	38	40
50歳代	4	15	19
60歳代	3	10	13
70歳以上	0	8	8
合計	13	92	105

表 4. 被害にあった場所^(注7) (不明・無回答等 43 件除く (n=72))

被害にあった場所	件数	割合
家庭	66	92%
店舗等	2	3%
学校	0	0%
公園	0	0%
道路	0	0%
公共施設	1	1%
海・山・川等自然環境	0	0%
車内・機内・船内	0	0%
その他	3	4%
合計	72	100%

(注7) PIO-NET の項目では「事故発生場所①」を用いて集計しています。

2. 危害に関する主な相談事例

※相談事例は、疾病名も含め相談者の申し出に基づくものです。括弧内の属性は相談者の属性で、いずれも被害者（身体にけがや病気等の疾病（危害）を受けた者）と相談者が同じ人である事例です。

（1）本人が使用した柔軟仕上げ剤に関するもの

【事例1】柔軟仕上げ剤を使用したところ、において気持ち悪く、体調不良になる

贈答品であるためもったいないと使い始めた。洗濯時の柔軟仕上げ剤のにおいて気持ちが悪く、体調不良になる。家族ともに同じ症状が出る。この商品は大丈夫なのか。

(2013年8月受付、40歳代、女性)

【事例2】柔軟仕上げ剤を使用したところ、せきが止まらなくなり、医師に複数の薬を処方された

柔軟仕上げ剤を使用し、室内干したところ、においがきつく、妻と2人ともせきが出るようになった。柔軟仕上げ剤を使用したタオルで顔を拭くとせきが止まらなくなった。メーカーに連絡すると、柔軟仕上げ剤を持参して医師の診察を受けるように言われたのでそのとおりにした。2人共アレルギーの反応が低かったため、原因不明とのことで、複数の薬を処方してもらった。

(2011年10月受付、30歳代、男性)

（2）他人が使用した柔軟仕上げ剤に関するもの

【事例3】近隣からの柔軟仕上げ剤と思われるにおいて悩まされている

最近、マンションのベランダ側から入ってくる近隣からの柔軟仕上げ剤と思われるにおいて、鼻や喉が痛くなり悩まされている。ベランダの窓を閉めていても換気口からにおいがする。

(2012年10月受付、40歳代、女性)

【事例4】隣人の洗濯物のにおいがきつ過ぎて頭痛や吐き気がある

隣人の洗濯物のにおいがきつ過ぎて頭痛や吐き気があり、窓を開けられなく換気扇も回せない。柔軟仕上げ剤のにおいではないかと思う。医師の診察は受けていないが、家族3人全員同じような症状で今まで特定の物質にアレルギーがあるとされたことはない。

(2013年6月受付、40歳代、女性)

【事例5】飲食店の店員からの柔軟仕上げ剤のにおいで、食べたい気持ちがなくなってしまう

皆が柔軟仕上げ剤を使い過ぎてそのにおいに過敏に反応して気持ちが悪くなる。特に、飲食店で柔軟仕上げ剤のにおいがする店員に運んで来られると食べたい気持ちがなくなってしまう。

(2012年6月受付、50歳代、女性)

【事例6】頭痛や気分が悪くなる。化学物質過敏症に苦しむ人がいることを知ってほしい

最近、香りが長く継続するような柔軟仕上げ剤が販売され使用している人が多く、近隣の洗濯物や電車内等で、香り付きの柔軟仕上げ剤の香料によって頭痛や気分が悪くなることもある。化学物質過敏症に苦しむ人がいることを知ってほしい。

(2012年8月受付、40歳代、女性)

3. 柔軟仕上げ剤のにおいの成分について

一般的に、製品のにおいの元となる香料成分は、数千種類あるとされ、事業者はそれらをブレンドして特徴のある香りを作っています。この香料成分を製品から逆にたどって、使用されているものを特定し、含有量を測定することは大変難しいものです。

2012年に消費生活センターの依頼により実施した商品テストでは、柔軟仕上げ剤を使用した洗濯物を干した際の室内空気中の揮発性有機化合物（VOC）の分析データから、成分の同定を試みましたが、ほとんどの成分は同定できませんでしたが、いくつかの成分は香料原料や香料の溶剤等として使われる化学物質と推定されました。

さらに、洗濯物を干した際の室内空気質の状態をみるため、強い芳香のある柔軟仕上げ剤、微香タイプの柔軟仕上げ剤を使用した場合、そして柔軟仕上げ剤を使用しない場合について、室内空気中の総揮発性有機化合物（TVOC^(注8)：Total Volatile Organic Compounds）を調べました^(注9)。

その結果、柔軟仕上げ剤を使用しない場合と微香タイプの柔軟仕上げ剤を使用した場合ではそれぞれ約20 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 上昇しましたが、強い芳香のある柔軟仕上げ剤を使用した場合では約70～140 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 上昇しました^(注10)。

(注8) TVOCには、香料成分等のおいのある成分も、おいのない成分も含まれています。

(注9) それぞれ標準使用量の柔軟仕上げ剤を使用した洗濯物約2kgを、容積35.0 m^3 （約8.7畳）、換気回数約0.7回の室内に1時間干した後のTVOCの室内空気中の値を調べました。なお、相談の多くは、隣家などの他人が使用した柔軟仕上げ剤のにおいについての相談であるので、屋外に干した洗濯物から放散され室内に入ってくるものについてテストするのが望ましいのですが、揮発性成分については、温度、風向き等により大きく異なることが予想されるため、テストの再現性を優先し、室内に干した場合についてテストしました。

(注10) 厚生労働省が定める室内空気質のTVOC暫定目標値は400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ とされています。この数値は、国内家屋の室内VOC実態調査の結果から、合理的に達成可能な限り低い範囲で決定した値であり、室内空気質の状態の目安として利用されることが期待されています。TVOC暫定目標値は、毒性的知見から決定したのではなく、含まれる物質の全てに健康影響が懸念されるわけではありません。（厚生労働省：シックハウス対策「室内濃度指針値一覧表」

<http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/situnai/hyou.html> より)

4. 業界の動向

国内のせっけんや洗剤などの製造者等で構成される業界団体の日本石鹼洗剤工業会から説明を受けたところ、表示の自主基準を設け、洗濯実態調査を行っているとのことでした。

・表示の自主基準について

衣料用の柔軟仕上げ剤は、家庭用品品質表示法の政令指定品目に該当しないことから、品質等の表示については、各社の自由裁量に任されています。そのため、工業会では、消費者の方々がより分かりやすく、選びやすくするための情報提供等に主眼を置いて、2001年8月に品名、成分、用途、正味量、使用量の目安、使用上の注意等についての表示の自主基準を設けています。

・洗濯実態調査について

工業会では、1991年以来、原則として5年ごとに「洗濯実態調査」を実施しています。調査の内容は、洗濯に関する「アンケート調査」と実際の洗濯ごとに洗濯物重量や洗剤・柔軟仕上げ剤量を計測し記録する「日記式調査」の2本立てで行っています。

その調査結果では、洗濯時に毎回柔軟仕上げ剤を使用する人は、調査のたびに増加しており、「2010年洗濯実態調査」のアンケート調査結果（対象者208名）では6割を超えました。しかし、柔軟仕上げ剤の使用量を洗濯物重量に応じて決めている人は2割程度でしかなく、使用方法に関する質問では、計量していない人が16%でした。また、日記式調査結果（対象者108名）では、標準使用量の2倍以上使用している人が23%いました。

柔軟仕上げ剤を使用する理由が、香りや柔らかさといった個人的な感覚と嗜好によることが多いため、使用量のばらつきが大きくなるものと考えられます。

柔軟仕上げ剤は、入れ過ぎると洗濯物の吸水性が低下することがありますので、使用量については、洗濯物重量に応じて適量を使用することを、工業会では推奨しています。

5. 専門家からのコメント

公益社団法人におい・かおり環境協会 会長 岩崎 好陽

・においの問題について

近隣工場や事業場などから発する悪臭などの問題はとて古くからあり、事業活動に伴う臭気については規制を行い、様々な対策を行っていますが、なかなかなくなる問題です。最近のにおいの問題には、よいにおいと感じられることの多い、飲食店からのにおいや、香料のにおいでも苦情となることがあります。さらには、家庭内の無臭化が進み、ちょっとしたにおいでも許容できない方々が増えていると思われます。

・柔軟仕上げ剤のにおいについて

自分がにおいに敏感な場合は、商品の表示や製造者のホームページなどで確認することで、ある程度予防できます。

においの強さや感じ方には個人差があります。自分が慣れたにおいは、感じにくくなる傾向にあるため、においを強くしようと使用量が徐々に増えてしまうこともあります。また、自分にとっては快適なおいでも、他人は不快に感じていることもあることを認識して、使用にあたっては、使用量が過度にならないようにするなど配慮する必要があると考えられます。

6. 消費者へのアドバイス

(1) 自分がにおいに敏感な場合は、商品を選択する際に、商品の表示等に記載された芳香の強さ等を参考にしましょう

柔軟仕上げ剤に関する相談の中には、使用して体調不良になったという相談もあります。自分がにおいに敏感な場合は、商品を選択する際に、商品の表示や製造者のホームページに商品の芳香の強さや芳香の種類を記載しているものもあるので参考にしましょう。

(2) 自分にとっては快適なおいでも、他人は不快に感じることもあるということを認識しておきましょう

隣家などの他人が使用した柔軟仕上げ剤のにおいに関する相談が多く寄せられています。においの種類や強さの感じ方には個人差があり、自分が慣れたにおいは、感じにくくなり、使用量が徐々に増えることもあります。自分にとっては快適なおいでも、他人は不快に感じることもあるということを認識しておきましょう。

7. 業界・輸入事業者への要望

においが与える周囲への影響について配慮を促す取り組みを行うよう要望します

柔軟仕上げ剤のにおいについての相談が増えており、中には体調不良を申し出るような事例もみられることから、においが与える周囲への影響について配慮を促すような取り組み（商品の注意表示や啓発活動など）を行うよう要望します。

○ 要望先

日本石鹼洗剤工業会

○ 情報提供先

消費者庁 消費者安全課

厚生労働省 医薬食品局 審査管理課 化学物質安全対策室

経済産業省 製造産業局 化学課

環境省 総合環境政策局 環境保健部 環境安全課

消費者委員会事務局

日本チェーンドラッグストア協会

一般社団法人 日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会

公益社団法人 日本通信販売協会

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165